

定住自立圏構想

中心市宣言書

平成21年9月15日

北海道小樽市

中心市宣言

小樽市は、北海道の南西部に位置する北海道しりべし後志支庁の拠点都市であり、東は札幌圏と接し、西に積丹半島、南に羊蹄山麓、そして北は「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」の一部の海岸線で、日本海と深緑の山々に囲まれ、都市的な利便性と四季折々に変化する自然環境をともに兼ね備えたまちであります。

さて、現在、我が国は、人口減少社会を迎え、少子・高齢化の急速な進行やグローバル化、高度情報化の進展など、経済・社会環境は大きく変化しています。また、生活環境は、ゆとりや潤い、安全・安心を重視する方向へと変化してきており、人々の価値観やライフスタイルの多様化も一層進んでいます。

地方自治体においては、基礎自治体への権限移譲などにより地方分権が加速する中、国と地方の役割分担を見直し、住民をまちづくりのパートナーとして、互いに知恵を出し合い、創意工夫し、協力しながら、地域の特色や実情に応じた取組が求められています。そのため、自己決定、自己責任の考え方を基本に置いた行政運営の仕組みづくりが必要であります。

本市は、明治以来、北海道開拓の物流の拠点都市として、港や鉄道を中心に発展してきたまちであります。一方、市内には、先人たちが築いた小樽の歴史を物語る建物が数多く残され、小樽運河とともに、それらが織り成すまち並みは、市民はもとより多くの来訪者に安らぎを与え、今や道内有数の観光都市であります。

本市を含む近隣6市町村においては、交通網や交通手段の発達により、住民は、市町村の境界を意識することなく往来し、近隣町村の住民は本市の都市機能を、本市の住民は近隣町村の自然や農水産物などの恩恵を互いに享受しながら暮らしてきました。さらに行政面でも、「北しりべし廃棄物処理広域連合」を組織し、ごみ処理を共同して行うなど、広域的課題に対し一体となって取り組んできました。

このような状況をかんがみると、既に住民生活の中においては、おのずと交流の芽が培われていたものといえます。さらに将来において、経済や雇用、医療、福祉、教育などの機能を維持していくためには、これらの取組を拡大し、圏域全体で都市機能と地域資源を活用しながら一体的な発展と住民の利便性向上を図っていくことが重要な視点であります。

このため、小樽市は、本市を中心市とした「北しりべし定住自立圏」を形成し、周辺町村との連携と役割分担の下、圏域の人たちが安心して暮らすことができる地域づくりを進めることを、ここに宣言します。

平成21年9月15日

小樽市長 **山田勝磨**

1 都市機能の集積状況

小樽市は、市の庁舎を始めとする公共施設のほか、国や北海道の出先機関が集中している。また、医療・福祉、教育、文化・スポーツ・娯楽、産業等に関連する各施設や交通機能など、行政や民間分野における都市機能の集積状況は、おおむね以下のとおりである。

分類	都市機能	施設名	摘要
医療・福祉	救急医療 初期救急医療施設 第2次救急医療施設	小樽市夜間急病センター 市立小樽病院 小樽市立脳・循環器・こころの医療センター 北海道済生会小樽病院 北海道社会事業協会 小樽病院 日本海員掖済会 小樽掖済会病院 ひまわり会札幌病院 おたる北脳神経外科 北海道社会事業協会 小樽病院	
	小児・周産期医療	北海道社会事業協会 小樽病院	
	子育て施設	保育所（市立6か所、私立14か所） 地域子育て支援センター（市立2か所）	
	知的障害児通園施設	小樽市さくら学園	
	児童デイサービス	小樽市こども発達支援センター	
	重症心身障害児施設	大倉山学院、みどりの里	
	介護保険施設	介護老人福祉施設4か所、介護老人保健施設5か所、介護療養型医療施設8か所	
	高齢者関係施設	養護老人ホーム1か所、軽費老人ホーム2か所、生活支援ハウス1か所、有料老人ホーム5か所	
教育	障害者施設	身体障害者療護施設1か所、身体障害者入所授産施設1か所、知的障害者入所更生施設2か所、知的障害者通所更生施設3か所、知的障害者通所授産施設1か所	
	大学	国立大学法人小樽商科大学 学校法人尚志学園北海道薬科大学	
	専修学校	市立小樽病院高等看護学院、小樽歯科衛生士専門学校、小樽市医師会看護高等専修学校	
	高等学校	道立6校（普2 職3 特1）、私立3校	
文化・スポーツ・娯楽	その他	国立小樽海上技術学校 北海道職業能力開発大学校 学校法人北海道龍谷学園双葉中学校	私立
	文化・社会教育施設	小樽市民会館、小樽市民センター、小樽市公会堂、小樽市生涯学習プラザ、市立小樽図書館、小樽市総合博物館、市立小樽文学館、市立小樽美術館、小樽市手宮洞窟保存館、旧日本郵船(株)小樽支店(国指定重要文化財)、旧手宮鉄道施設(国指定重要文化財)	
	スポーツ施設	小樽市総合体育館、小樽市祝津ヨットハウス、小樽市望洋サッカー・ラグビー場、小樽桜ヶ丘球場、小樽公園弓道場、小樽手宮公園競技場、小樽サンフィッシュスポーツクラブ、板谷スポーツクラブウェルビー、フィットネスクラブクラッセ、コナミスポーツクラブ、朝里川温泉スキー場、スノークルーズオーズ、小樽天狗山スキー場	
	映画館	ワーナー・マイカル・シネマズ小樽	

分類	都市機能	施設名	摘要
産業	観光施設	小樽運河、おたる水族館、小樽市鯨御殿、小樽市観光物産プラザ(運河プラザ)、小樽天狗山ロープウェイ、朝里川温泉郷	収容人数 100人以上 店舗面積 1,000㎡超
	宿泊施設	グランドパーク小樽、ドーミーイン PREMIUM 小樽、小樽グリーンホテル、ホテルノイシュロス小樽、宏樂園、オーセントホテル小樽、小樽朝里クラッセホテル、かんぼの宿小樽、ホテルノルド小樽、ホテル武蔵亭、ホテルソニア、ホテルヴィブランチ小樽、おたる自然の村おこぼち山荘、ウィンケル	
	商業施設 金融機関等	ウイングベイ小樽、長崎屋、ホームマックスパーデポ手宮店など計22か所 日本政策金融公庫小樽支店 北洋銀行5店舗、北陸銀行2店舗、北海道銀行2店舗、小樽信用金庫10店舗、北海信用金庫3店舗、マリンバンク北海道信漁連小樽支店、北海道労働金庫小樽支店、郵便局34か所、簡易郵便局2か所	
生活	消費生活相談	小樽市消費者センター	
交通機能	鉄道駅 長距離バス	小樽駅 小樽⇄札幌、 小樽⇄積丹、小樽⇄ニセコ、小樽⇄岩内	新日本海フェリー
	フェリー 高速道路 都市幹線道路 港湾施設(重要港湾)	小樽⇄舞鶴、小樽⇄新潟 札幌自動車道(小樽IC 朝里IC 銭函IC) 国道5号、393号、337号 道道小樽港線、環状線 小樽港、石狩湾新港(一部事務組合)	
広域施設	ごみ処理施設 「北しりべし廃棄物 処理広域連合」	北しりべし広域クリーンセンター (ごみ焼却施設/リサイクルプラザ)	
国・道の 行政機関	国の機関	札幌法務局小樽支局、小樽税務署、 北海道財務局小樽出張所、小樽検疫所、小樽社会保険事務所、小樽労働基準監督署、 小樽公共職業安定所、北海道農政事務所地域第3課、第一管区海上保安本部、小樽海上保安部、北海道開発局小樽開発建設部、 北海道運輸局、札幌地方裁判所小樽支部、 小樽簡易裁判所	
	北海道の機関	北海道後志支庁(小樽道税事務所、小樽商工労働事務所、小樽土木現業所)、北海道立地質研究所海洋地学部、小樽警察署	

2 周辺自治体住民における本市の主な都市機能の利用状況

(1) 市立各病院の患者数の内訳

病院名(病床数、診療科数)	種別	地域別	患者数(人)	構成比(%)
市立小樽病院 病床数 223床 診療科数 13科	入院	小樽市内	57,892	83.0
		周辺町村	8,560	12.3
		その他	3,263	4.7
		合計	69,715	100.0
	外来	小樽市内	98,816	84.0
		周辺町村	13,605	11.6
		その他	5,139	4.4
		合計	117,560	100.0

病院名(病床数、診療科数)	種別	地域別	患者数(人)	構成比(%)
小樽市立 脳・循環器・ こころの医 療センター 病床数 222床 診療科数 8科	入院	小樽市内	48,589	72.4
		周辺町村	9,276	13.8
		その他	9,245	13.8
		合計	67,110	100.0
	外来	小樽市内	50,337	80.2
		周辺町村	8,282	13.2
		その他	4,114	6.6
		合計	62,733	100.0

(患者数は、平成20年度患者統計による。)

(2) 小樽市夜間急病センターの利用状況

	利用者数(人)	構成比(%)
小樽市内	8,305	87.2
周辺町村	366	3.8
その他	852	9.0
(札幌市)	(267)	(2.8)
(その他)	(585)	(6.2)
合計	9,523	100.0

(平成18年度利用者数)

(3) 市立小樽図書館の登録状況

	登録者数(人)	構成比(%)
小樽市内	24,411	98.4
周辺町村	165	0.7
その他	226	0.9
合計	24,802	100.0

(平成21年3月末市立小樽図書館登録者数)

(4) 小樽市への通勤・通学者状況

	就業流入人口		通学流入人口	
	人数(人)	通勤率(%)	人数(人)	通学率(%)
積丹町	12	0.1	25	1.0
古平町	35	0.3	50	2.0
仁木町	75	0.7	57	2.2
余市町	918	8.8	353	13.9
赤井川村	18	0.2	17	0.7
その他市町村	9,397	89.9	2,037	80.2
合 計	10,455	100.0	2,539	100.0

(平成17年国勢調査数値)

(5) ごみ焼却施設(北しりべし広域クリーンセンター)市町村別搬入状況

	搬入量(t)	構成比(%)
小樽市	38,656.9	84.8
積丹町	582.8	1.3
古平町	928.7	2.1
仁木町	608.7	1.3
余市町	4,389.9	9.6
赤井川村	404.9	0.9
合 計	45,571.9	100.0

(平成20年度実績:北しりべし廃棄物処理広域連合調べ)

3 周辺市町村と連携を想定する取組

中心市である小樽市と周辺町村が役割分担の下、各種連携の取組を行い、圏域を形成する。そのために、周辺町村の意向を十分配慮しながら、次の取組を推進していくことを想定している。

なお、取組の詳細については、連携する町村と協議を行った上で決定する。

(1) 生活機能の強化に係る政策分野

① 医療

救急医療体制や地域周産期母子医療センター（北海道社会事業協会小樽病院（道認定））を中心とした小児・周産期医療体制の整備など、圏域住民の安全・安心を確保するため、市立病院、公的病院及び民間病院における役割分担と医療連携によるネットワーク化を推進するとともに、医療機能の更なる充実を図る。

② 産業振興

リンゴやトマト、タラコやウニなど、地域の農水産物を活用した加工品の開発及びブランド化を促進し、地域特産品や新商品の効果的なPRを行うとともに、中国との定期コンテナ航路の活用などにより、東アジアを含めた国内外への販路拡大を図る。

③ 広域観光

小樽運河や歴史的なまち並みの散策など小樽市の都市型観光と、自然や新鮮な農水産物など周辺町村の観光資源とを有機的に結び、圏域内の魅力を総合的にPRするとともに、これらを生かした観光商品の開発や観光ルートの開拓に努める。

また、観光客の圏域内における回遊性の向上により滞在時間の延長を図り、観光波及効果の拡大を図る。

④ 教育

市民大学講座など生涯学習に関する講座等について、参加範囲を圏域に広げるなど、生涯学習機会の充実を図る。

⑤ その他

上記のほか、生活機能に関する分野に取り組む。

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

① 地域公共交通

積丹線（小樽～積丹）、余市線（小樽～余市）など、中心市と周辺町村を結ぶ生活路線や通勤・通学などの交通手段の維持・確保を図る。

② デジタル・ディバイド（情報格差）の解消へ向けたICT（情報通信技術）インフラの整備

地域医療連携や広域行政サービスの充実など、ICT利活用を推進する。

③ 道路等交通インフラの整備

高速道路（小樽～黒松内）、鉄道（駅）、海上航路（港）とのアクセス網を充実し、道路景観や交通安全にも配慮した効率的な交通ネットワークの形成を図る。

④ 生産者と消費者の連携による地産地消

野菜やくだもの、海産物など、当圏域で生産される農水産物の新鮮さや安全性をPRするとともに、直売システムの構築など、生産者と消費者の連携による地産地消の取組を図る。

⑤ 地域内外の住民との交流・移住の促進

圏域内の暮らしやイベントの情報を共同で発信し、移住促進を図るとともに、宿泊・自然体験などによる余暇メニューの充実による圏域内外の住民との交流を推進する。

⑥ その他

上記のほか、結びつきやネットワークの強化に関する分野に取り組む。

(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

① 人材の育成

小樽市内の大学との連携・交流により、職員の資質の向上を図る。

② 外部からの人材の確保

民間企業等経験者の採用、北海道など他自治体職員との相互交流、専門家の招へいなどを進め、職員の政策マネジメント能力の醸成を図る。

③ 圏域内市町村の職員等の交流

圏域職員の合同研修、人事交流などにより、地域の将来を担う人材の育成を図る。

④ その他

上記のほか、圏域マネジメント能力の強化に関する分野に取り組む。

4 中心市への通勤通学割合が0.1以上の町村

小樽市において就業し、又は通学する町村の就業者数及び通学者数

自治体名	就業者・通学者総数(人)		小樽市における 就業・通学者数 (人)	通勤・通学割合 $D=C/(A-B)$
	(15歳以上) A	自宅従事者数 B		
仁木町	2,229	974	132	0.11
余市町	11,500	2,160	1,266	0.14

(平成17年国勢調査数値)

5 その他連携する意思を有する町村

小樽市への通勤通学割合は0.1未満であるが、定住自立圏構想を推進するため連携の意思を有する町村は、次のとおりである。

- ・ 積丹町、古平町、赤井川村

